

# 平成29年度学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校)

目指す学校像	尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。
--------	-------------------------------

重点目標	1 互いの信頼関係のもと、自走する生徒集団づくりをととして、目指す学校像の実現に取り組む。 2 生徒に、第一志望はゆずらない、との堅い信念を持たせ、全ての職員が全力をあげて生徒一人一人の進路実現に取り組む。 3 保護者・県民に対する情報提供をととして、開かれた学校づくりを推進するとともに、浦和高校の良さを積極的に発信する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 6 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	高校入学段階で、主体的に行動できる生徒が少なくなっている現状では、自走(自立)を待つ指導ではなく、自走を促す指導が必要である。各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導の研究と実践が必要である。	自走する生徒集団づくりをととしたリーダー育成の推進	ア 自主的な自己管理の上に立ち、授業、家庭学習、早朝・部活後学習、時間・モノの管理、週番会、挨拶、清掃、部活動、行事等を主体的に行えるように促す。 イ ホームルーム会長を中心にクラスの係を機能させ、生徒主体のクラス作りを行わせる。主体的に様々な課題に挑戦させる。 ウ 仲間と認め合い、支え合い、切磋琢磨し合う生徒集団を主体的に行動する集団へと進化させ、個々の人間的成長を促す。	ア 年度末に実施するアンケートにより、浦高生活に主体的に取り組めたという回答が75%を超える。 イ 年度末に実施するアンケートにより、ホームルームが協力して主体的に取り組めたという回答が75%を超える。 ウ 卒業生アンケートで「ともに頑張る仲間の存在」や「学習をととした人間的成長」を感じた生徒が75%を超える。	ア 授業への主体性、部活動や委員会活動への主体性、行事への主体性は83%であった。このほか、課題への主体性を尋ねたところ90%が肯定的な回答をした。 イ ホームルームとしての主体性は82%であった。集団力の礎となるホームルームのつながりは強いものであることがうかがえる。 ウ 人間的に成長したという点について、卒業生アンケートによる結果は94%であった。(4月18日)	A
2	以下の観点による授業改革及び教員の経験の蓄積・共有を更に推進する必要がある。 ①生徒の学習姿勢を、依存型から自主型へ促す指導の探究と共有 ②各教科・科目の基礎基本の早期定着、及び書く力・考える力・伝える力の育成 ③大学入学後までも見据えた高度な授業内容 ④SGHの趣旨をふまえ、グローバル化社会を視野に入れた志の育成 併せて、多くの生徒が目指す国公立大学進学を現役で実現させるための学習指導・進路指導が必要である。	(1)指導力の向上と情報の共有を通じ、生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進 (2)高い志を育成し、進路実現を支援する取組の推進	ア 教員の授業力の向上を図り、生徒の主体的な学習を促す授業改善のため、授業公開期間を設定し、授業公開の実施、および教科を横断した授業検討会を実施する。 イ 生徒の主体的な学習を促すための、生徒による授業評価アンケートを実施と、各教科(科目)による検討会を行い授業改善に生かす。 ウ 生徒の書く力・考える力・伝える力を育成する方策や評価の視点を各教科で検討し、教職員全体で共有する。	ア 教員アンケートで、授業力が向上し、主体的な学習を促す授業改善に生かすことができたという回答が75%を超える。 イ 教科(科目)毎に作成した授業評価アンケートを年1回以上実施し、各教科(科目)でまとめ、授業に主体的に取り組めたという回答が75%を超える。 ウ 生徒の授業評価アンケートで書く力・考える力・伝える力が伸びたという回答が75%を超える。	教員相互の授業公開や、その後の授業検討会、研修会をととして、教科横断的な視点を取り込んだ、全校的な授業改善を推進することができた。 ア 授業公開はのべ30人の教員が行った。授業公開・検討会、研修会により授業力の向上につながったと回答した教員は84%であった。 イ 各教科の授業評価アンケートにより、78%の生徒が主体的に授業に取り組んだと回答した。 ウ 各教科の授業評価アンケートにより、78%の生徒が書く力等が伸びたと回答した。(4月18日)	A
3	HPや教育活動説明会、土曜公開授業などを通じて情報発信を行ってきた。本校の様々な取組や成果について、より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、中学生の保護者をはじめとする県民のニーズに応える必要がある。	積極的な情報提供による開かれた学校づくりの推進	ア 全教職員による組織的・計画的な広報活動の展開 イ 保護者・県民に向けた土曜公開授業の実施 ウ HPを活用した情報公開および利便性の向上 エ 小中学生・保護者・中学校教員・教育関係者向けの説明会の実施 オ 学校情報提供の機会を積極的に活用	ア 広報委員会主催の行事を滞りなく実施する。 イ 土曜公開授業をのべ800人が見学 ウ HP更新回数100回以上 エ 学校の他に公共施設も利用し、本校主催の教育活動説明会を2回開催し、小学生冬休み特別教室、小学生スポーツ教室、小学生保護者対象説明会を実施する。 オ 本校主催以外の説明会等に教職員を派遣し、のべ2000人に本校の紹介、説明を行う。	本年の広報に関しては、主体的な取組となるよう見直し、全職員により協働して実施した。 ア 小学生向け特別教室、スポーツ教室をはじめ、主催する行事を滞りなく終了した。 イ 土曜公開授業は7回実施し、1054名が参加した。 ウ HP更新回数は232回であった。 エ 予定した説明会に加え、中学校との信頼関係の構築・向上に努めた。中学校訪問により情報交換を行ったり、中学校の進路行事に参加したりした。 オ さいたまスーパーアリーナでの進学フェアにおいて約300名への紹介と約3400名へパンフレット配布を行った。また、地域の学習塾主催の説明会へは20回参加した。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成30年3月3日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
時代の求めるリーダーの育成を目指す、という大きな目標に向けて様々な視点からの取組を行っているが、一つ一つの成果の積み重ねが大切である。一方で、年単位では評価できないものもある。一定の目標を達成したと判断されるならば、次のステージに向けて頑張ってもらいたい。	主体性を育てる取組はとても良い。ショートディスプレイセッションやスピーチといった、自己表現や他者理解の力はグローバル社会において必要な力である。浦和高校の強みとして継続し、広めていただきたい。
第三者評価により優れた取組と評価されたことは、先生方にとって励みになることと思う。教員の学び合う姿は生徒たちの学び合いのお手本となっているのではないだろうか。様々なテーマについて話し合われているようであり、まさに教科横断的な取組ではないかと言える。	主権者教育や新学習指導要領、大学入試改革といった様々な課題に対して、先生方が協力して取り組んでいくことを期待している。社会では働き方改革が課題となっている。先生方の浦高への思いは十分わかる一方で、教員の負担については心配がある。
生徒は目標を達成するために努力を重ねているところであるが、それにこたえる進路行事は充実していると思う。新しい取組である1年次キャリア教育では、身近なOBという存在をととして社会を見るというとても良い機会である。	各年次が発行している年次通信が保護者のもとに届くようにするという工夫はとても良い。よりチーム浦高が一体となった進路指導を進めていただきたい。
SGH事業はとても良い実践である。一部の生徒だけが参加しているものと考えられがちだが、総合的な学習の時間を中心に全生徒に対しての活動が計画されていることを確認できた。大学進学ばかりでなく、広い視野を持たせる意味でも、さらなるSGH事業の裾野の拡大をお願いしたい。	SGH事業はとても良い実践である。一部の生徒だけが参加しているものと考えられがちだが、総合的な学習の時間を中心に全生徒に対しての活動が計画されていることを確認できた。大学進学ばかりでなく、広い視野を持たせる意味でも、さらなるSGH事業の裾野の拡大をお願いしたい。
全職員が参加するということは、大変なことではあると思うが、多くの人たちに浦和高校の良さを知ってもらえるよう、引き続きお願いしたい。	小学生とその保護者の対する広報活動は定着してきたようである。ここで改めて中学生への広報を充実させることで、小学校から高校までの12年間を見通した人生の構想について考える機会を与え、浦和高校としての魅力を引き出すことにつなげることができると思う。
具体的な方策の多くを達成することができたが、次年度も中学生はもちろん、私立中高一貫校への対応も含めて、小学生やその保護者に対しても全人教育を目指す浦高教育の良さを発信したい。その際、より一層地域の公立中学校とも連携していきたい。またより本校生徒が参加する形での広報の仕組みも考えたい。さらには、広報委員だけでなく、多くの先生方が参加可能な全校をあげての活動の仕組みづくりも推進していきたい。	学校案内により情報を発信する部分では、海外への留学をアピールできないだろうか。実際に海外進学した卒業生の声を載せると身近なものと感じられ、良いのではないかと考えている。